



車両管理の基礎知識から安全運転管理、
アルコールチェック義務化への対応まで
Cariotを活用した車両管理完全ガイド



1 **まずはここから!車両管理の基礎知識** p.03

- 車両管理の目的
- 車両管理の管理項目とは
- 車両本体を管理する「車両管理台帳」
- 運転者と走行情報を管理する「運転日報」
- 車両を適切に配置・使用するための「運行管理」

2 **アナログ車両管理の問題点とデジタル化のメリット** p.08

- アナログ車両管理の問題点
- 車両管理のデジタル化でできること
- 車両を管理する「管理部門」におけるデジタル車両管理の主なメリット
- 車両を利用する「営業部門」におけるデジタル車両管理の主なメリット
- デジタル車両管理を実現するCariotの機能

3 **社用車の事故を防ぐ、安全運転管理のポイント** p.16

- 社用車による事故のインパクト
- 危険運転を防ぐための車両管理システム選定のポイント
- 安全運転管理のために押さえておくべき3つの機能
- 主要な車両管理ツール3種類の機能比較
- 危険運転70%削減を実現するCariotの機能

4 **車両管理だけじゃない! Cariotが実現する業務効率化** p.21

- 車両の動態管理で実現する生産性UPと業務効率化

まずはここから!車両管理の基礎知識

車両管理の目的

はじめて車両管理を担当する場合、最初の壁のひとつとしては「そもそも何をすればよいか見当がつかない」ということが挙げられます。

「車両管理」を行う第一歩として、「車両管理」を行う目的を定めた上で、どのような業務が必要になるのかを整理し、考えていきましょう。

業務で車両を使用する企業・事業所は、運転業務を行う従業員の安全を確保しなければなりません。しかし、車は移動するための手段である以上、運転者が運転を開始すれば、管理者は常に運転者の状況を確認・把握できるとは限りません。そのような状況下において、トラブルが発生すれば、会社が責任を問われることもあります。そのため、管理者は、従業員と車両の安全を確保し、もしもの場合の損害を最小限に抑えるためには日頃から「車両管理」を行う必要があるのです。

「車両管理」にはさまざまな項目がありますが、その目的には大きく分けて「リスク回避」と「コスト管理」があります。

目的 1

リスク回避

運転者の安全管理だけでなく、事故を起こさないよう車両の点検・整備を行うことも「リスク回避」のための重要項目です。

車両の管理者は、定期的にルールを確認・徹底し、車両の整備・点検を行うことで、人と車両、双方の安全を守ることにつながります。

また、管理者の目の届かない場所で事故が起こることも想定される中で、日常業務に関するルールだけでなく、もしものときのルールや対応策を決め、それらを社内に周知・徹底する必要があります。

目的 2

コスト管理

コスト管理の中には、「社内資産の管理」の項目があります。車両を利用する業務を行う企業にとって、人材・車両は大切な資産です。

例えば、運転者が事故を起こすと企業の責任が問われます。場合によっては多額の賠償金や対応費用が必要になることもあることに加えて、企業イメージの低下も避けられません。

「コスト管理」という観点からも、運転者が事故を起こさない仕組みをつくり、徹底すること、そして何かトラブルが起きても、それらを最小限に留めるための施策や対応策の策定が必要です。

上記の他に、コスト面で避けては通れない代表的な項目のひとつに「燃料の消費量」があります。急発進・急加速・急ブレーキ・アイドリングなど、より多くのガソリンを消費する運転ではなく、時間とスケジュールに余裕を持たせた運行でエコドライブを心がけることで、事故の予防だけでなく燃料費の削減につながる効果も期待できます。

車両管理の目的

- | <リスク回避> | <コスト管理> |
|-----------------|--------------------|
| ○ ドライバーの安全管理 | ○ 社内資産の管理 |
| ○ 車両の整備・点検状況の把握 | ○ 事故による金銭的・社会的損失防止 |
| ○ 安全管理ルールの策定と徹底 | ○ 燃費消費量の削減 |

車両管理の管理項目とは

一言で「車両管理」といっても、保有台数・業務形態などに応じて管理すべき項目は変わってきます。

「車両管理」を行う際は、管理すべき情報を整理し、自社の実情に合う項目の洗い出しを行いましょ。

その後、それぞれの業務内容について誰がどの業務を行うか、どの部分の管理をどの部署が行うかをあらかじめ決めることが運用上の混乱を防ぎ、「車両管理」のスムーズな運用を実現する第一歩です。

まずは、右記の項目について自社の状況を確認しましょう。どの項目をどのように管理していくかなど、実情に合わせた項目の洗い出しと管理すべき情報を整理・検討することからスタートし、効率的な車両管理体制を整えましょ。

車両管理の項目例

1. 自動車の管理

- 車両の保管場所と管理方法
- 車両の維持管理
- 燃料・消耗品などの管理

2. 運転者の管理

- 安全運転教育(危険運転・飲酒運転の防止)
- 運転者の勤務時間や休憩など時間の管理
- 行き先や使用目的の把握
- 運転者の健康管理

3. 運行管理

- 車両使用台帳:車両の運行実態の把握
- 運転日誌への記録:運転時間の把握と記録
- 車両管理台帳への記録:車両の定期点検記録の管理
- 車両の配置・稼働台数の適正化
- 事故、災害時の対応マニュアル整備

車両本体を管理する「車両管理台帳」

「車両管理台帳」とは、会社が所有している社用車の登録番号や車検日、保険に関する情報を一元管理するものです。

車両の管理台数や運転者の人員が多い企業・事業所では、情報を集約するだけでも大変な作業です。

自社が保有する車両の情報を集約できないままの状態では事故が起きた場合、素早い対応を取ることができないだけでなく、車両に関する情報を確認できないという事態になりかねません。

このような事態を避けるためにも、日頃から車両情報を「車両管理台帳」に集約・整理し、正確な情報を記録することでリスク管理を行い、万が一の事態が発生しても慌てずスムーズな対応ができる体制を整えましょう。

「車両管理台帳」で管理する項目は企業によって異なりますが、一般的な基本事項として右記の内容を記載します。

車両管理台帳の基本事項	
1. 車両を特定する項目	<ul style="list-style-type: none"> ○ 車名、車種、登録年度・登録番号など ○ 車両本体に関する項目（車体番号、定員など） ○ 購入・廃車に関する項目（購入した年月日、購入した場所、廃車年月日など）
2. 車両の状況を把握する項目	<ul style="list-style-type: none"> ○ 車検・整備状況に関する項目（車検有効期限、定期点検の内容、整備工場名、整備状況） ○ 修理・事故に関する項目 ○ 使用・管理に関する項目
3. 車両の保険に関する項目	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自賠責保険 ○ 任意保険

基本事項の他に、必要に応じて走行距離、ガソリンの量、車両メンテナンスの内容を加えるなどして、より詳細な管理を行うこともできます。

また、自社で保有している車両以外にリース車両がある場合、保有車・リース車に分けて管理する方法もあります。

管理すべき項目は多岐にわたりますが、必要な項目の洗い出しを行い、状況に合わせて順次、必要な項目を追加しましょう。

運転者と走行情報を管理する「運転日報」

「運転日報」とは、安全運転管理者が行うべき業務のひとつです。業務に車両を使用した際の記録を記載するもので、業務で使用する車両を保有する企業が作成すべき書類です。「運転日報」を適切に作成し管理することで、車両の使用状況や運転者情報が把握できるようになります。

また、下記の条件に当てはまる企業には「運転日報」の作成義務があります。

- 貨物自動車運送事業を行っている企業
- 事業で使用する車両数が一定台数以上の企業

「運転日報」は、安全運転管理者が行うべき業務として、道路交通法施行規則第9条の10第6号で「運転の状況を把握するため必要な事項を記録する日誌を備え付け、運転を終了した運転者に記録させること」と定められています。そのため、同法に基づき安全運転管理者には、運転者名や走行車・走行情報・休憩時間や給油状況等を記録することが義務付けられています。

「運転日報」の作成が求められる企業・事業者はトラック運転事業者だけでなく、営業車などを保有している企業も該当します。具体的には、乗車定員が11人以上の車両を1台保有、または乗車定員が11人未満の車両を5台保有している企業・事業所は、「安全運転管理者」を置き、「運転日報」を記録しなければなりません。

車両を利用して業務を行う企業・事業所は、車両の正確な使用状況や運転者情報を把握できるよう、「運転日報」を作成し、管理を行きましょう。

「運転日報」を作成する際、決められたフォーマットはありません。「車両管理台帳」と同様に、自社の運用に合う使いやすいフォーマットを各社で作成して使用します。その際、インターネット上で公開されている汎用的なフォーマットを利用すると、ゼロから作る手間が省くことができ便利です。

インターネットで入手できるテンプレート例

- 運転日報の書き方を説明!エクセルのテンプレート作成例とアプリの活用についても解説
<https://www.cariot.jp/blog/2019/04/26/daily-report-writing>
- 運転日報のエクセルテンプレートを目的別に紹介
<https://www.cariot.jp/blog/2019/04/26/daily-report-template>

車両を適切に配置・使用するための「運行管理」

車両管理における「運行管理」とは、車両を適切に配置・使用することです。そして「車両の適切な配置」とは、車両の稼働効率を考えながら、効率的に回ることができるエリアやルート割り当てを意味します。しかし、単にコストや輸送効率だけを考慮して車両を配置し、ルートを設定すればよいわけではありません。

厚生労働省労働基準局が策定・公表している「自動車運転者の労働時間等の改善のための基準(改善基準告示)」に基づき、運転者の拘束時間・休息期間など労務管理をはじめとした複数の要素も考慮した計画を立てなければなりません。

運行管理で考慮すべき4つのポイント



安全かつ効率的な運行管理を行うためには、運行実態を正確に把握する必要があります。

その上で、「運行計画に対しての実績の把握」と「現状の運行計画におけるボトルネックの洗い出し」ができる体制を整えることが理想的です。

しかし、複数の営業所がある・運転者の稼働状況を把握できない・季節要因による車両稼働の変動が大きいなど、さまざまな要因により現状の把握がままならないこともあります。

従来のアナログな手法で運行管理を行う場合、車両ごとの稼働状況や走行状況などの情報を即時に収集することは至難の技です。

これらの問題を解決する方法として、運行管理のデジタル化が挙げられます。デジタル管理システムを活用することで、これまで管理者側からは見えにくかった現場の状況をデータとして自動で取得・集約できるようになり、運転者と車両の実態をひと目で確認できるようになります。

より簡単かつ正確な「運行管理」を行うための最初のステップとして、運転者と車両それぞれの実態を「見える化」する体制づくりがおすすめです。

デジタル管理システムを導入し、具体的なデータを取得できる環境を整備した後、それらのデータを元に「適切な車両の配置ができていないか」、「配置台数や運転者数に過不足はないか」など、業務上の問題点を洗い出し、また改善策を検討・実施することで、適切な運行管理の実現につながります。

アナログ車両管理の問題点とデジタル化のメリット

アナログ車両管理の問題点

車両を利用して業務を行う企業・事業所においては、「車両管理」は重要な業務のひとつです。

しかし、従来のアナログな管理では、車両の使用者が運転の記録を紙に書き込んだり、集計レポートを作成する際には多くのデータを手入力したりしなければなりません。このような管理手法は非効率で手間がかかります。

アナログ車両管理には2つの問題点があります。

問題点
1

属人的な管理の限界

アナログな車両管理における問題点のひとつに、属人的な管理が挙げられます。

管理する車両数が増えると管理工数も増えるため、限られた人員では適切な管理が難しくなります。

また、人の手による管理は、人為的ミスリスクが伴うという問題もあります。さらには、運転者が記載事項を自己申告する手法では、故意ではなくても細かいズレや間違いなどが発生しやすく、正しい情報が記録されない可能性もあります。正確な情報を記録するためには、属人的な管理では限界があるのです。

問題点
2

リアルタイムの管理ができない

2つめの問題点には、リアルタイムの管理ができないという点があります。車両の現状が把握できない場合、

- 今どこにいるのか
- 最適なルートを走行しているのか
- 遠隔地の車両がどのような状況にあるのか

など、現在の状況を正確に把握することができません。

また、報告・連絡は運転者に依存するため、事故が起きてしまった際の対応も遅れてしまいます。

それらへの対応策として一般的なドライブレコーダーを導入していたとしても、映像の確認にSDカードの移し替えが必要になるなど、リアルタイムの管理ができないことが考えられます。

車両管理のデジタル化でできること

人の手によるアナログな車両管理ではさまざまな問題が発生しますが、車両管理のデジタル化を行うことでそれらを軽減することができます。デジタル管理システムを導入することで、これまでは運転者が自己申告をしていた運転開始・終了時刻の報告や実際の走行ルート、各種車両データなども自動で取得できるようになり、現場の状況を正確に把握しながら効率のよい「車両管理」が実現できるでしょう。

自動で取得したデータは、インターネットを経由して管理システムに送信され、リアルタイムで一元管理されます。さらには、システム上でデータが集計・可視化されるため車両や走行情報を視覚的に把握・確認することも可能です。

ここからは、デジタル車両管理システムの導入により実現できることをご紹介します。システムによりできることは異なりますが、大体のものは次のとおりです。

○ 車両やドライバーの管理工数削減

車検や保険、保管場所、リース先情報、走行データなどの「車両情報」の他、所属部署、緊急連絡先免許証の番号や種類、有効期限などの「ドライバー情報」が一元管理でき、作業工数を圧縮できます。

○ 走行履歴レポートの自動作成

システムが自動で取得した走行記録をもとに、車両利用報告書などのレポートを自動で作成できます。

○ 事故削減

急な減速や加速、速度超過の情報をもとに、危険運転を早期に発見します。それらのデータを活用した具体的な運転指導などを通じて事故の発生を未然に防ぐことが期待できます。

○ 車両稼働率の改善

車両の予約管理ができるようになると、車両の利用実態を把握することができます。車両を利用するスタッフ数や業務量に対して車両数に過不足がないか分析をすることで、適正な車両数を見極められるようになります。

○ 車両の現在地の把握

インターネットを利用して、車両の位置をリアルタイムに把握できるようになります。走行ルートや運行状況の確認、到着時間の割り出しも可能で、必要に応じて適切な運行指示を行うこともできます。

車両を管理する「管理部門」におけるデジタル車両管理の 主なメリット

車両を管理する部門において、車両管理に関する業務は多岐にわたります。日々の運行・予約管理はもちろんのこと、保険、駐車場、リースなどの各種契約の更新、さらには車検・メンテナンス、運転者への安全確認や各種指導などがあります。これらを紙ベースで管理する場合は、必要な情報の収集や整理に手間がかかります。しかし、デジタル車両管理をすることで、これらの業務過程で発生する人為的ミスを防止しつつ、業務負担と工数の大幅な軽減が期待できます。

以下、主なメリットをご紹介します。

メリット
1

管理者の負担と工数の軽減

車両管理システムを導入すれば、仕事で使用する車両のあらゆる情報をインターネット上で一元管理することができます。車両から直接データが送信されるため、報告書や書類など紙でのやり取りも不要となり、管理業務における工数が大幅に削減できます。

メリット
2

人為的ミスの防止

運転者が紙に記入した自己申告の内容を管理者が手作業で入力して管理する場合、どうしても記入漏れや入力ミスなどが発生するリスクがあります。車両管理システムでは、車両からの情報が自動で速やかに送信・処理されるため人為的ミスが削減できるでしょう。さらに、車検や保険加入の状況も簡単に確認することができます。導入したシステムによっては、車検や保険の期限前にアラートメールが送信されるものもあり、それらを活用すれば、更新のタイミングを逃すこともありません。

メリット
3

車両コストの削減対策

車両管理システムにより「見える化」された各種データは、業務内にある課題や業務のさまざまな見直しのためのヒントを与えてくれます。例えば、ガソリンの消費量、消費割合を部門ごとに比較して燃料費の削減や車両台数のスリム化、保険の見直しなどの他、業務の効率化・安全性の向上を通じた車両コストの削減対策にも役立ちます。

車両を利用する「営業部門」におけるデジタル車両管理の 主なメリット

営業部門は、実際に車両を利用する立場です。

車両を用いた業務において「仕事の効率化」、「安全意識の向上」は重要な課題ですが、デジタル車両管理システムはこの2点を強力にサポートできるものが多くあります。

メリット
1

走行状況の可視化による営業の効率化

車両管理システムは、走行状況の「見える化」を実現します。運転者ごとの走行ルートがリアルタイムでわかります。これらの情報を元に、効率のよい走行経路や渋滞エリアの把握とルートの再設定を行うなどすることで、業務における効率化を図り、生産性の向上を目指すことができます。

また、社外の関係者にリアルタイムで位置情報や到着時間の共有ができるようになれば、これまでは電話で行っていた連絡・確認などの作業負担軽減も期待できます。

メリット
2

危険運転の記録システムによる安全運転管理の徹底

車両管理システムには、危険運転の記録システムが搭載されている製品もあります。速度超過や急な減速・加速を記録するなど、ドライブレコーダーで撮影された動画がリアルタイムで管理者へ送信される機能を備えているシステムもあります。これは運転者の安全運転意識を高める材料となる他、万が一、事故が起きた際の初動対応としても役立ちます。

メリット
3

車両予約機能で車両を上手にシェアできる

車両予約管理機能がある車両管理システムであれば、効率よく社有車の管理ができるようになります。

限られた台数の車両を部門内でシェアしている場合でも、車両予約の重複を防ぎ、円滑な運用を行うことができます。

デジタル車両管理を実現するCariotの機能

車両管理の業務は多岐にわたり、きちんと管理しようとなるとそれなりの人手と工数が必要となります。当社が提供する車両管理・動態管理システム「Cariot（キャリオット）」は、限られた人員で効率的に車両管理を行うための機能を備えています。

車両情報の管理

Cariotはクラウドで車両管理台帳を一元管理することができます。

管理項目はそれぞれ最大400項目までカスタム設定が可能で、企業に適したデジタルな台帳管理を実現できます。

車両点検時期やリース車両の更新時期には、指定したタイミングでメール通知が来るよう設定をしておいて、点検や更新などの対応漏れを防ぐことも可能です。

関連	詳細	活動	リアルタイムモニタ	月報	日報
車両名	練馬300に0826	所有者	所有車	generic-20220916002	
ドライバー	松田 賢		Cariot システム管理者		
現在のルート	関東営業部_南1ルート		表示名		
車両管理エリア	アイコン個別		円+矢印		
東京駅周辺	アイコン		明るい緑色の青		
運行予定登録可能	アイコンサイズ		小		
関東営業部_配送車1	車両画像URL				
Cariot導入時オドメーター値(km)	車検走行距離(km)				
120,000.0	120,000.0				
平均燃費(km/l)	最終走行距離(km)				



運転者情報の管理

免許証の番号、免許種類、免許証有効期限の他、緊急連絡先など、運転者の情報も一元管理ができます。

アラートメールの活用で、免許更新時期の通知など、運転者単位での情報更新の抜け漏れを防ぐことができます。走行履歴と紐づけて、運転者ごとの走行レポートも作成可能です。

車両情報と同様に、自社の運用体制に合わせて管理項目を自由に追加することができます。



データでできる安全運転管理

危険運転データは自動で記録し、急加速、急減速、速度超過といった危険運転の回数を把握できるだけでなく、根本的な原因である長時間走行や、早朝・深夜の走行なども見やすいグラフで可視化ができるので、正しいデータをもとに、運転者への指導・対処が可能になります。

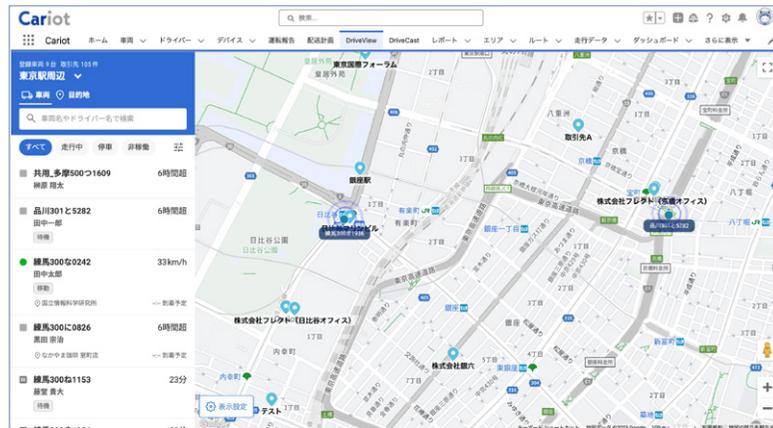


アナログ車両管理の問題点とデジタル化のメリット

DriveView

「DriveView」は、車両の位置情報や目的地への到着予測時間、状況などがリアルタイムにわかる機能です。

例えば、お問い合わせのあった企業名で検索すると、その企業に向かう予定がある車両と周辺の車両が今・どこにいるかがモニター上で確認できるので、ドライバーに電話連絡をせずとも、状況を把握してすぐ対応できるようになります。

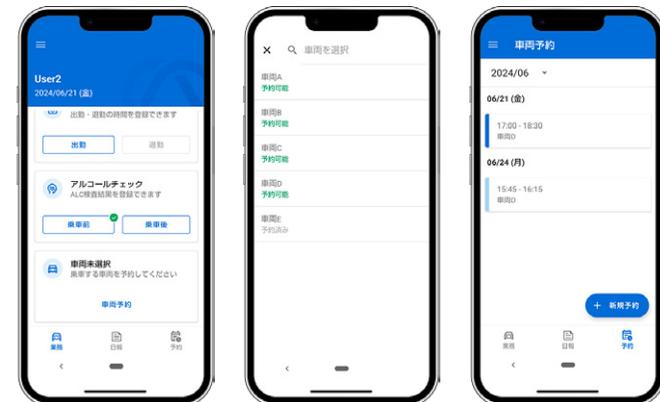


車両予約

「車両予約」機能で、共有車の予約をデジタルでカンタン運用できます。予実管理もできるため、空予約、利用時間の超過も管理可能。時間外や休日の車両予約も申請・承認ワークフローを活用して負荷なく運用ができます。

Cariotモバイルアプリをインストールしたスマートフォンからも予約ができます。

各車両の予約状況を把握することで、適切な車両の利用を促すことに役立ちます。



アナログ車両管理の問題点とデジタル化のメリット



アルコールチェック

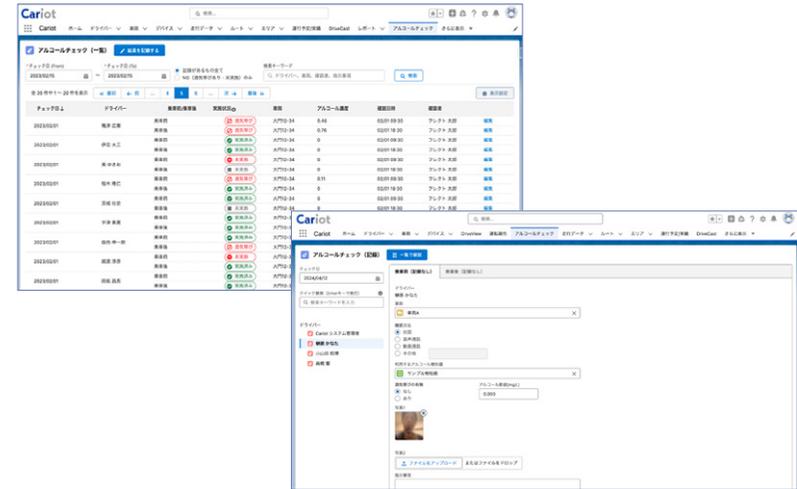
アルコールチェック結果の入力・編集はスマートフォン、パソコンいずれでも可能です。

さらにCariotモバイルアプリをインストールしたスマートフォンと、Cariot指定のアルコール検知器をBluetoothで接続すれば、チェック結果が自動的に記録されます(Bluetooth連携は管理者の対面確認の代替にはなりません。運転者による入力だけで完結できてしまうリスクがあるため、運用によるフォローが必要です)。

対面での確認ができず、非対面で実施する場合にも、スマートフォンからの入力に対応でき、アルコールチェック時の写真登録もできます。

アルコールチェックの登録データは、管理者がリアルタイムに確認することができます。アルコールチェックの陽性者や未チェックの一発検索ができ、確認作業も含めたスムーズな運用で、管理者の負担を大幅に軽減します。チェック結果は1年間デジタルデータで保存されるので、完全ペーパーレス化が実現できます。

アルコール検知器のメンテナンス情報も管理でき、アラート通知設定によりメンテナンス漏れを防ぐことができます。



Cariotのアルコールチェックについての詳細は、Cariot製品サイトをご覧ください。



アルコールチェック

https://www.cariot.jp/price/alcohol_check/

社用車の事故を防ぐ、安全運転管理のポイント

社用車による事故のインパクト

大手損害保険会社の調査によると、事故率(=保険金支払件数÷契約車両台数)は例年、12%前後を推移するそうです。つまり、10台社用車を保有していれば、年間1件以上の事故が起きる可能性があるといえます。

万が一、社員が会社の車で事故を起こしてしまった場合、取引停止や企業イメージの失墜、損害賠償の支払い、裁判や警察への届け出等の事後処理、保険料の増額など、そのインパクトは測り知れないものがあります。

事故を完全になくすことは難しくても、適切な車両管理を行うことで、運転者・車両・運用ルールの状態を常に把握し、安全な状態に保ち、事故発生リスクを低減させることができます。

しかし車両管理の担当者の立場としては、紙やExcelの帳票は増やしたくないというのが正直なところではないでしょうか。

紙や表計算ソフトで車両や運転者の状況を常に把握するのは大変ですが、車両管理をデジタル化すれば見づらい運転中の状況もパソコンで簡単に閲覧でき、安全対策に役立てることができます。

危険運転を防ぐための車両管理システム選定のポイント

大まかに「車両管理システム」と呼ばれている製品の機能を目的別に分類すると下図のようになります。世に多数出回っている車両管理システムは、一見どれも同じように見えるかもしれませんが、製品によってカバー範囲はさまざまです。システム導入を検討される際は、貴社のニーズを満たす機能がカバーされているかどうかを見極めてください。

必須	監視	効率化
法令を遵守するために必要な情報の管理ができる	危険運転の状況を把握して、データに基づいた指導を行える	リスク低減にとどまらず、業務の効率化を支援する
<ul style="list-style-type: none"> ○ 運転日報の作成 ○ 運転者情報の管理 ○ 車両情報の管理 ○ アルコールチェック義務化への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 位置情報取得 ○ 走行履歴(ルート)閲覧 ○ 速度履歴閲覧 ○ 危険運転(急ブレーキ、急ハンドル等)の検知 ○ 異常アラート ○ 安全運転評価レポート 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 分析ダッシュボード ○ 他システム連携(勤怠など) ○ 稼働率把握・車両予約 ○ 燃費・CO2排出量情報取得 ○ 到着予想時刻のお知らせ ○ サボリの発生検知 ○ 推奨ルート検索

安全運転管理のために押さえておくべき3つの機能

事故の予防を目的に車両管理システムの導入をお考えの場合、以下3点の機能があるシステムを選ぶことをおすすめします。

必須機能 1 危険運転を検知できる機能

運転者ごとに急ブレーキ、急発進、急ハンドルなどの危険な挙動をリアルタイムで検知し管理者に通知する機能があるか確認しましょう。
検知機能に加えて、危険運転前後の映像を手軽に確認できる機能があれば、より効果的な指導ができます。

必須機能 2 メンテナンスを補助する機能

車検の時期や日常点検の有無、走行距離などの情報に応じてメンテナンス時期を自動でお知らせしてくれる機能があれば、車両のメンテナンス不備を防ぎ、常に安全な車を運転できるようになります。

必須機能 3 ルール違反を検知する機能

事故を未然に防ぐには運転者・車両ごとに速度超過等のルール違反をリアルタイムに把握し指導できる体制が重要です。カスタマイズ性の高いシステムを選ぶことで、自社特有のルール違反も確実に把握して指導できるようになります。
また、アルコールチェック義務化に対応できるかどうかも確認した方がよいでしょう。

主要な車両管理ツール3種類の機能比較

「おさえておくべき3つの機能」を軸に、主要な車両管理ツールを比較しました。
株式会社フレクトが開発・販売しているCariot（キャリオット）なら、それらの機能をすべてカバーしています。

機能		Cariot	A社製品	B社製品
運転者ごとに危険運転を検知できる機能	急ブレーキ、急発進、急ハンドル、速度超過の検知	○	△ 急ハンドルの検知は未対応	○
	危険運転発生前後の映像を手軽に確認	○	×	×
車両のメンテナンスをサポートする機能	メンテナンス情報を自動でお知らせ	○	×	○
ルールの逸脱を検知できる機能	自社固有の事情に基づくルールの遵守状況も監視	○ ニーズに合わせて柔軟なルール設定が可能	×	×

※各社とも日々機能開発を行っておりますので、内容が変わる可能性があります。

危険運転70%削減※を実現するCariotの機能

Cariotは、多くの企業様で社用車の事故防止に活用されています。Cariotを導入いただいている企業様の中には、導入1か月で危険運転の発生を70%削減※することに成功した事例もあります。

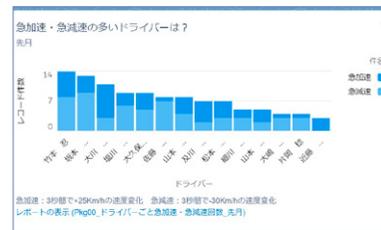
危険運転を削減し、安全運転管理に役立つCariotの各種機能をご紹介します。

※企業努力も含まれます。



運転者ごとに危険運転を検知する「アラート」機能

運転者に起因する事故を防ぐには、運転者ごとに運転の癖を把握し、個別に指導を行うことが効果的です。Cariotには、危険運転(急加速、急ブレーキ、急ハンドル)をシステムが自動で検知して、管理者にお知らせする機能があります。さらに、レポート機能と組み合わせて危険運転傾向の高い運転者を抽出することができ、誰にどんな安全運転指導が必要なかを把握できます。



運転者ごとの稼働状況を把握できる「レポート」、 「ダッシュボード」機能

Cariotに蓄積された走行データを元に、各運転者の稼働状況を集計することができます。

突出して運転時間や運転距離の長い運転手がいる場合は、業務の割り振り状況を見直すなどの対策をとることで、過重労働による事故を未然に防ぐことができます。



社用車の事故を防ぐ、安全運転管理のポイント



車両のメンテナンスをサポートする「日常点検」機能

Cariotでは車検の満了日が近づいた車両など、メンテナンスが必要な車両情報を一元管理することができます。メンテナンス情報を管理者にメールで自動送信することもでき、メンテナンスの必要な車両を特定するために台帳を検索する手間がかかりません。

管理者の負担を減らしつつ、漏れなく社用車のメンテナンスができるようになります。

さらにCariotモバイルアプリの「日常点検」を使えば、管理者があらかじめ設定した点検カテゴリ・項目について、スマートフォンで記録が残せます。

エンジンオイル残量確認やタイヤの空気圧確認、傷の有無などが設定できます。点検結果や状況などは、パソコンで一覧表示し、俯瞰して確認することができます。



アルコールチェックのスムーズ運用

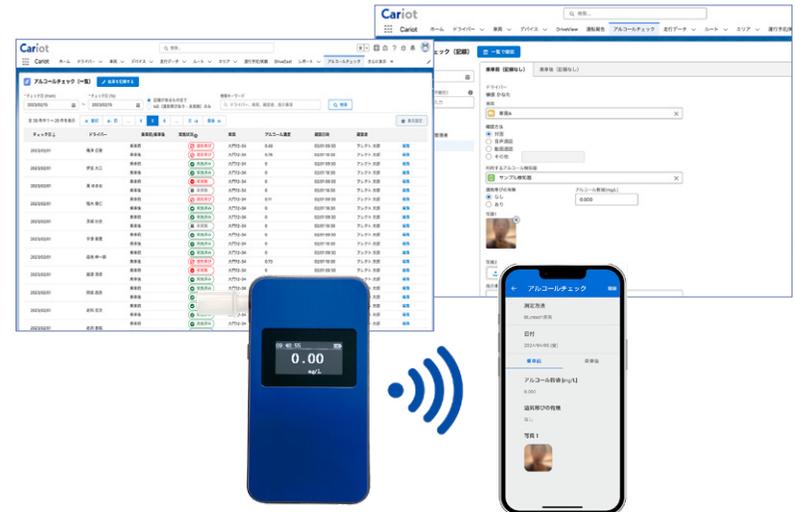
アルコールチェック結果の入力・編集はスマートフォン、パソコンいずれでも可能です。さらにCariotモバイルアプリをインストールしたスマートフォンと、Cariot指定のアルコール検知器をBluetoothで接続すれば、チェック結果が自動的に記録されます(Bluetooth連携は管理者の対面確認の代替にはなりません。運転者による入力だけで完結できてしま

リスクがあるため、運用によるフォローが必要です)。

対面での確認ができず、非対面で実施する場合にも、スマートフォンからの入力に対応でき、アルコールチェック時の写真登録もできます。

アルコールチェックの登録データは、管理者がリアルタイムに確認することができます。アルコールチェックの陽性者や未チェックの一発検索ができ、確認作業も含めたスムーズな運用で、管理者の負担を大幅に軽減します。チェック結果は1年間デジタルデータで保存されるので、完全ペーパーレス化が実現できます。

アルコール検知器のメンテナンス情報も管理でき、アラート通知設定によりメンテナンス漏れを防ぐことができます。



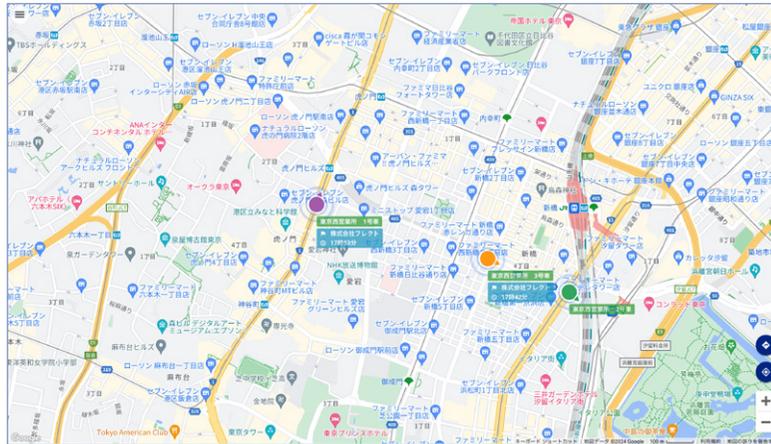


車両の位置情報の共有できる「DriveCast」機能

「DriveCast」機能を利用することで、配送先などの社外の関係者にも、車両の位置情報や目的地への到着予定時間を簡単に共有できます。

万が一、事故が発生してしまった場合、迅速な状況の把握と関係者への情報共有が求められます。

「DriveCast」を活用することで、運転者との電話連絡が難しい状況であっても車両が今どこにいるのかを即時に把握し、関係者に共有できる体制が整います。



車両管理だけじゃない! Cariotが実現する業務効率化

車両の動態管理で実現する生産性UPと業務効率化

Cariotは、車両管理・安全運転管理だけでなく、車両を用いた輸配送や営業活動といったあらゆる業界の業務効率化・生産性UPに向けた機能も備えています。

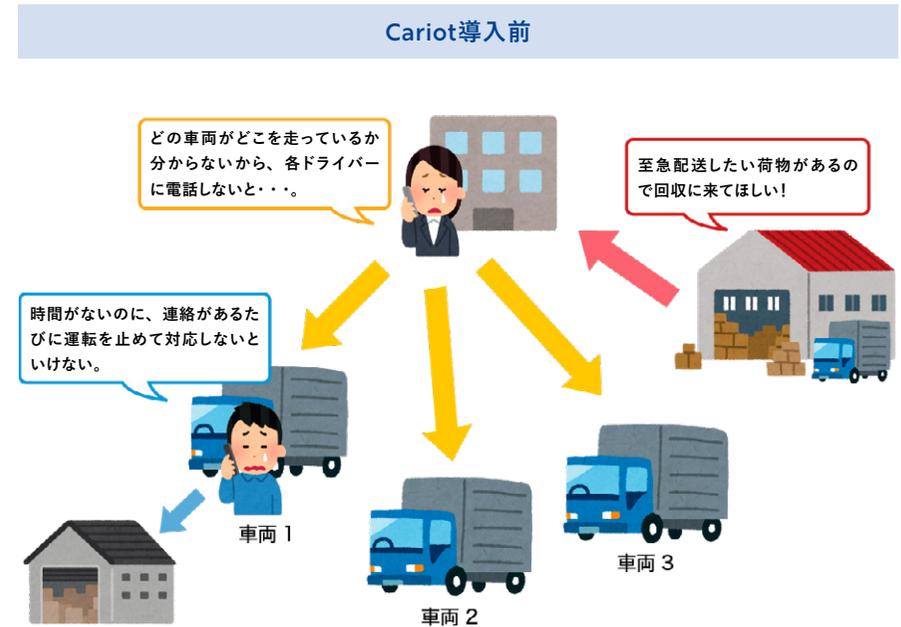
配送業務の運行管理を例にとると、運行担当者を悩ませることのひとつに「最適なルート選択」が挙げられます。このようなお悩みもCariotの活用によって改善策を見つけることができます。

例えば、ルート配送を行う際には、日時・場所・積載量などを考慮したルート設計が求められます。

その上で稼働可能な運転者は何名いるのか、誰にどのルートを任せるとかを組み立てる必要があります。

しかし、いくら綿密にルート計画を立てたととしても、道路渋滞による遅延の発生や、追加の配送依頼、配送キャンセルなどの不測の事態を完全に防ぐことは難しいでしょう。

担当者はその都度、運転者に連絡をして現在地を確認し、状況に応じた運行計画の組み直しを行わなければなりません。そうすると、運行管理担当者はこれらの作業にかかりきりになり、他の業務にかかる時間を十分に確保できなくなってしまうという非効率が発生してしまいます。



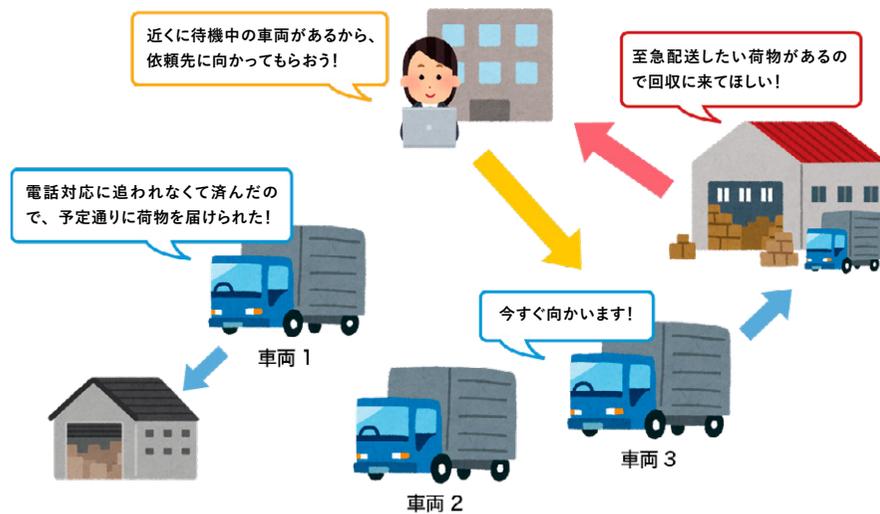
車両管理だけじゃない! Cariotが実現する業務効率化

このようなケースでも、Cariotを活用すれば、車両の位置情報や道路状況などが自動で取得されるので、リアルタイムで現場の状況を把握できるようになります。管理者はそれぞれの運転者に電話をかけることなく、システムの管理画面を確認することでお客様からの問い合わせに対応できたり、運転者へ指示を出したりすることができるようになります。

運転者側としても、運転や作業を止めて電話対応や報告をする必要がなくなり、本来の業務に専念できるようになります。

このように、Cariotは生産性の向上や運転者の健全な労務環境の整備にも大きなメリットがあります。

Cariot導入後



Cariotはさまざまな業種・業態の企業にご活用いただいています。

詳細はCariot製品サイトの導入事例ページをご覧ください。

Cariot導入事例ページ

<https://www.cariot.jp/case/>





車両管理の基礎知識から安全運転管理、アルコールチェック義務化への対応まで

Cariotを活用した車両管理完全ガイド

お問い合わせ先

株式会社フレクト Cariot事業部

Web: <https://www.cariot.jp/>

Mail: cariot_marketing@flect.co.jp

TEL: 03-3561-9610 (平日10:00 ~ 18:00)

Cariot 



cariot.jp

※本資料の情報、及び画像は、作成時点のものです。詳しくは最新の情報をご確認ください。
※各社事例の情報は、ヒアリング時のものになります。また、数値評価は企業努力も含まれます。

